

留 学 報 告 書

記入日:2019年6月18日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部 国際日本学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ノーザン州立大学 現地言語: Northern State University
留学期間	2018年8月～2019年5月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	教育学部 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年5月31日
明治大学卒業予定年	2021年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月中旬～12月上旬 2学期:1月上旬～5月上旬 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	3,622
創立年	1901

留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	円	備考
授業料		円	
宿舍費	3,787	432,332円	
食費	5,000	580,000円	
図書費	800	92,800円	
学用品費	50	5,800円	
教養娯楽費	100	11,600円	
被服費	1,000	11,600円	
医療費	20	2,320円	
保険費		100,000円	形態:明治大学推奨保険:ベーシックプラン
渡航旅費	3,200	371,200円	日本～アメリカの往復渡航費のみ
雑費	900	104,400円	日用品など
その他	6,000	696,000円	留学中・後の旅行費
その他		円	
その他		円	
合計	20,857	2,419,417円	

渡航関連

渡航経路: 往路: 羽田ーロサンゼルスーミネアポリスーアバディーン
復路: ハリーシンガポールー羽田

渡航費用

チケットの種類	エコノミークラス
往路	200,800 円
復路	170,400 円
合計	371,200 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

トラベルコ

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

大学の宿舎

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数1人)

3) 住居を探した方法:

寮に入ることが強制だったので、大学から連絡があり、選択肢を絞った。

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

どの寮に住んでも教室が近く、量と寮の行き来もしやすいので、とても良い。新設の寮がとても綺麗だが、どの寮にも特色があるので、それをきちんと理解して選ぶと良いと思う。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会がなかった
 利用した: 校内の診療室に行った

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

大学に相談窓口はあったが、問題があればホストファミリーに相談した。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

特に危険地域ではなかったが、友達が銃乱射のニュースを教えてください、SNS でまわっている情報を半信半疑で聞いていた。留学先では盗難にあったことはない。とても治安の良いところであった。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮の wifi はとてもよくて、特に有線 LAN など必要なく、学内の校舎内ならば接続可能であった。しかし、一度キャンパスを出ると、walmart や target、mcdonalds 以外では free wifi はなかった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地での銀行口座は開設せず、手数料はかかるが、日本で作ったデビットカードで現金の引き出しをしていた。主に現地での支払いはクレジットやデビットカードを使い、現金は持ち歩いていなかった。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

日本食は全く食べられない。やはりたまに食事が恋しくなるため、お菓子やインスタント食品は少し持っていくと良い。また、留学先が田舎すぎてモールもかなり閑散としていてショッピングは楽しめないが、必要なものは大抵オンラインストアで買った。しかし、配送に時間がかかるため、留学始めの頃に必要なものはもっていった方が無難である。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

クレジット、現地口座からの引き落とし、チェック払いから選べた。クレジットが手数料が高かったが、それ以外の方法がなく、自分名義以外のカードも使えたので、親のカードで支払った。

卒業後の進路について

1) 進路	
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:	
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など	
留学経験者の先輩にたくさん話をきいた。	
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。	
国際協力系の仕事がしたいので、将来的には国際機関や NGO で働きたいが、進学資金を貯めるために金融業界の進学を検討している。	
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。	
留学中に日本で行きたいインターンシップの応募があり、経験者の友人に添削を頼んだり、懇意にいただいている教授にアドバイスをいただいたりした。	
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。	
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。	
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
37 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
United States History	アメリカ歴史学
科目設置学部・研究科	史学部
履修期間	2018 秋
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式 (チューリリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	Dr. Dias
授業内容	アメリカ独立戦争以後から冷戦期までのアメリカ史について
試験・課題など	中間テストと期末テストに加えて、学期レポートが 1 本
感想を自由記入	教授が非常におもしろく、留学生に対してとても親切なひとなので、留学生の履修者も多い。歴史が好きで高校時代に世界史を履修していたから大丈夫だろうとタカをくっていたが、日本では掘り下げないような分野は非常に難しかった。中間テストと期末テストはエッセイ方式なのでテスト対策は大変ではあるが、非常に良い授業だと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Educational Psychology	教育心理学
科目設置学部・研究科	教育学部
履修期間	2018 秋
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 60 分が 3 回
担当教授	Dr. Geier
授業内容	子どもの発達段階に応じた心理学を学び、それがどう学校教育現場で応用されているか、自分が応用していけるかを学ぶ。
試験・課題など	学期中にテストが5、6回あり、チャプターごとにテストできるのは非常に良い。四択形式と少しの記述問題だけであるため、対策としてはそんなに大変ではない。
感想を自由記入	非常に有意義な授業だった。この教科にはフィールドワークもついてくるため、小学校訪問も経験できて非常に良かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Fieldwork Experience	実践学習
科目設置学部・研究科	教育学部
履修期間	2018 秋
単位数	0(Educational Psychology の 3 単位に含まれている)
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	実践形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 3 回
担当教授	Dr.
授業内容	教育学部の特定の授業で、実践学習が付随している教科の履修生に課される教科。自分の進路に合わせて小学校、中学校、高校の中から訪問先を選び、実際の授業アシスタントや放課後チュータリングを通じて教師の資質についての実体験を積む。
試験・課題など	なし。
感想を自由記入	とても楽しく非常に思い出深い教科の一つ。本来は 1 週間だけだが、あまりに楽しく延長を申し出て、友人と一緒に毎日のように通った。私は初等教育希望だったが、pre-school クラスに配属になり、放課後チュータリングでは特別支援学級の児童を担当した。自分の考えが変わるような素晴らしい体験ができ、アメリカの教育について肌で感じることができ、非常に良かった。Educational Psychology 以外にもこのフィールドエクスペリエンスを受講できるクラスがあるので、もし教育に興味があるならいくべきだと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Fundamentals of Speech	スピーチ基礎
科目設置学部・研究科	コミュニケーション学部
履修期間	2018 秋
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Sills
授業内容	どうすれば聴衆に訴えかけられるスピーチができるかを、ローマやギリシア哲学からヒントを得つつ、様々な手法やスピーチ形態でスピーチの基礎を学ぶ。
試験・課題など	学期に合計4つのスピーチ、各スピーチに付随する peer review と self-reflection paper の提出。学期末にはディベートのビデオを見て各主張者のスピーチについて考察する期末レポートがあった。
感想を自由記入	とても大変で、アメリカ人のスピーチが理解できずに振り返りシートがかけないこともやまやまあった。しかし、教授は英語の流暢さではなくスピーチの質で評価するため、英語の発音がわるくて、文法が拙いからという理由で評価がさがることにはなかったため、私は非常にこの授業が好きだった。毎週の授業で学びがあり、チュータリングセンターにも毎週通い、とても英語力が上がり学びの多かった授業だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Education		教育学入門	
科目設置学部・研究科	教育学部		
履修期間	2018 秋		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 75 分が 3 回		
担当教授	Dr. Schwan		
授業内容	教育学部の1回生がとる授業で、アメリカ史の中での教育の変遷を学んだり、教育関連の映画を見たり、学校訪問や教師インタビューなどを通じて、自分の思い描く将来の教師像や、教育全般の理想論、そしてその現実とのギャップについて深く掘り下げる。		
試験・課題など	試験は一切なく、授業内発言や、グループプレゼンテーションが学期中に5回ほどあった。		
感想を自由記入	担当教授がとてもいい人で、留学生の私の面倒を見てくださった。教育学をこれまで専攻したことがなかったため、非常に不安に思っていたが、カジュアルな入門から始まり、どんどん掘り下げていくという方式で非常におもしろかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Composition I		英作文入門	
科目設置学部・研究科	言語学部		
履修期間	2018 秋		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Dr. Benkert		
授業内容	英文レポートの書き方、MLA、APA、Chicago 方式での論文の書き方をマスターし、リサーチペーパーなどを元にレターサイズ4枚以上の論文執筆を行う。		
試験・課題など	学期で合計4本のレポート執筆と学期末プロジェクトとして私はオンラインポスター制作を行なった。		
感想を自由記入	できるだけアカデミック用語を使うように要求され、非常にタフな授業であった。チュータリングセンターとアメリカ人の友達に頼りきりで、とても大変だった。しかし、毎回の授業でリサーチ手法を学んだり、興味深いピックについてみんなでディスカッションしたり、グループのみんなで peer review したりと楽しみが勝る瞬間もおおくり、有意義な授業だった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introductory Spanish		スペイン語入門	
科目設置学部・研究科	言語学部		
履修期間	2019 春		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 4 回		
担当教授	Dr. Gonzalez		
授業内容	スペイン語を基礎から学ぶ。		
試験・課題など	オンラインテストが全部で6つ、オンラインプレゼンテーションが学期末に1つ、そして文字通りの日々の課題が大量にあった。		
感想を自由記入	後期はこの授業によって苦しめられたというくらい毎日の課題量がすごかった。ただ、教授はとても親切で、オフィスアワーに行き詰まっていた。ルームメイトがブルトリコ人でいつもスペイン語の課題を手伝ってくれていたからなんとか乗り切ることができたが、ドロップ率はとても高かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
South Dakota Indian Studies	先住民民族学
科目設置学部・研究科	教育学部
履修期間	2019 春
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Neville
授業内容	サウスダコタ周辺のプレーリーの先住民の暮らしと、今も残るサウスダコタ州内のインディアン・リザーベーションについて学ぶ。
試験・課題など	中間と期末試験の2つと、オンラインプレゼンテーション1つ、グループプレゼンテーション1つ、A オプションとして私は週一回のインディアン・チュータリングにもいった。
感想を自由記入	他のアメリカ人学生はこれまでの教育で培った知識があるのに対して、私は1からのスタートだったために勉強量も他の人とは比べ物にならないくらいで、かつオンライン文献が不十分であったために、本を読まなければならないことが度々あり、とても大変だった。しかし、インディアンチュータリングは楽しかったし、サウスダコタだからこそ先住民について学べたと思うから、履修して見たら面白いと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Special Education	障害者教育学
科目設置学部・研究科	教育学部
履修期間	2019 春
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	Dr. Vogel
授業内容	IDEA とよばれる、アメリカ政府が定めた障害者教育に関する法律について掘り下げ、その法律に明記されている主な障害類5つについて学び、実際の障害者教育の学級と通常学級の違いやその差をいかにして埋めていくかを学習する。
試験・課題など	チャプターのまとめごとにテストを行うため計4つ、全て選択問題の授業ないオンライン試験。ビデオをみたり、授業ないアクティビティに関するリフレクションペーパーが合計5回ほどあったように思う。その他、計2回のグループプレゼンテーション、学期末には Final Project とよばれる、何個かの選択肢がある中で自分がやりたいプロジェクトに取り組むという課題があった。私はリサーチペーパーを書いた。
感想を自由記入	元から障害者教育に興味があったわけではないが、アカデミックアドバイザーに勧められて履修してみたらとても興味深く、毎回の授業の虜になって行った。特にアメリカの障害者教育は世界的にも水準が高く、日本とは全く異なるシステムでウンエウされており、日本の障害者教育について考えさせられ、このままではいけないと強く思った。内容はかなり高度だが、全てを覚える必要はなく、先生自身もとても親切だったため、身構えることなく楽しんで学ぶことができ本当に良かったと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Earth and Physics for Elementary Teachers		初等教育のための地学・物理学	
科目設置学部・研究科	教育学部		
履修期間	2019 春		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Dr. Jay		
授業内容	毎回の授業で地学または物理学の分野を1つ取り上げ、実験を通して小学・中学理科の理論の復習をする。		
試験・課題など	概ね月一のペースで試験があり、それに加えて期末試験の合計6つ。最後に期末プロジェクトとして30分のグループプレゼンテーションもあった。		
感想を自由記入	単に知識を呼び戻すだけでなく、その単元にあった実験方法なども授業内で話し合うため、非常に面白かった。また、教授がとてもひょうきんな人で面白く、私が唯一の留学生だったこともあり、日本と話題を関連付けてくれたり、授業内で「日本はどのような?」と質問されてりして、常に教授や生徒との交流があって楽しかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Educational Technology		教育工学	
科目設置学部・研究科	教育学部		
履修期間	2019 春		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	オンライン(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に(推測)50分が3回		
担当教授	Dr. Francom		
授業内容	オンラインクラスでのディスカッションの組み立て方や、どのようなツールが教師・生徒のにとって有益かを教授が毎週課題と新しいツールを紹介しながら、ディスカッションに参加していくという流れ。		
試験・課題など	毎週教授がアップする1時間程度の動画を見て、2~3本ほどの論文を読んだ上で、オンラインディスカッションに200字程度のコメント、そのボード内で他のクラスメイト2人以上にリプライをしてディスカッションを盛り上げる。また、2週間に1回、レポートやオンラインプレゼンテーションが課される。最終課題として20分強のオンラインプレゼンテーションと実際に最新のツールを使ってもらって、そのインタビューを元にレポートを書いた。		
感想を自由記入	とてもきつかった。オンラインの授業なのでクラスメイトに頼ることもできず、ただ黙々とするしかなかった。しかし、教授はNSUの先生だったため、よくオフィスアワーに通って質問をしていた。論文を何個も読んだり、オンラインプレゼンテーションをしたりとてもタフな授業であったが、今まで知らなかった新たなツールを知ることができてとても良かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Orchestra		オーケストラ	
科目設置学部・研究科	芸術学部		
履修期間	2019 春		
単位数	1		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	集合練習と週2回の個人レッスン (チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が1回と、45分が2回		
担当教授	Dr. Stanicher		
授業内容	学期に2回あるコンサートでの演奏に向けてオーケストラとしての音を磨いていく。		
試験・課題など	なし		
感想を自由記入	たくさんの友達ができ、本当に楽しかった。小さい頃にバイオリンを10年間習っていたことが幸いし、バイオリンセッションで友達と演奏を楽しむことができた。コミュニティオーケストラだったため、学生だけでなく、地域の人ともとても仲良くなり、ホストファミリーぐるみで仲良くできて本当に良かった。		

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2017年 1月～3月	大学受験。3月末に明治大学に進学することを決める。
4月～7月	明治大学入学。慣れない東京生活のなかでも、少しでも外国の人と交流したり、国際協力に関わる仕事をしたいとサークルやボランティア活動に奔走する。
8月～9月	もともと大学では絶対に留学したいという思いがあったため、夏休み中に留学経験者に話を聞いていた。
10月～12月	11月の出願に向けて、アメリカにある協定校を1校ずつ調べ、自分の理想に合う大学を選び、出願。日本語願書は当時大学3年生で留学から帰ってきたばかりの先輩たちにお願ひし、英語願書は国際日本学部のネイティブ教員たちに何度も添削してもらった。面接対策は友達と何度も練習して、英語の授業の前後でネイティブ教員たちにも力を貸してもらった。
2018年 1月～3月	1月に協定留学行きが決定し、留学を成功させるためにはという本をたくさん読んだ。また、アメリカの大学ではTOEFL85はないと授業についていくのが厳しいときき、85を目指して真剣に勉強をはじめた。
4月～7月	VISA取得、留学先大学での寮やミールプランを出願、TOEFLをうけた。8月の出発と同時に東京の家を引き払うため、実家に荷物を少しずつ郵送したり、退去の際の手続きを調べたり、住民票の手続き等を行なった。
8月～9月	留学スタート。留学生同士で仲良くなり、アメリカ人とも仲良くなりたいと苦闘する日々。8月のカウンティフェアがとても楽しかった。9月のホームカミングでパレードをしたり学内バザーなどで盛り上がった。
10月～12月	9月末から10月頭にかけて中間試験、12月に期末試験。試験後はバンクーバー・シアトル・ポートランドを旅して、友達や家族に会いに行った。
2019年 1月～3月	1月から新学期。2月には[I HATE WINTER]という異常な盛り上がりを見せるイベントがとてもたのしかった。中旬にコンサート、3月の1週間に及ぶスプリングブレイクでアメリカ人友人の家に泊まらせてもらった。その休みの前後で中間試験。
4月～7月	4月にたくさんのお別れパーティーがあり、友達ともたくさん遊んだ。5月の期末試験で最終日に退寮しなければならず、お別れもそこそこに大学のバスに乗って空港へと移動した。その後大学のプログラムでスペインに行き、友達に会いにヨーロッパ各国を転々としてとてもたのしかった。帰国後はインターンシップを探して申し込み、自動車免許を取るために実家に帰省。
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	中学の時に地元の市の友好親善団として北京を訪問した時、初めて海外で道端で物乞いをする人々を見てとてもショックを受けました。タイに行った時も屋台の食べ物を盗む子どもの目がとても淀んでいて、私の知っている日本の小学生たちとは明らかに違い、少しでも貧しい子どもたちの生活が良くなるような仕事につきたいと考えるようになりました。高校時代に部活動で部長をしていたために留学に行くことができず、大学で必ず行こうと思っていました。明治大学はたくさんの協定校があるし、ぜひ行きたいと思ったのが留学の理由です。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	まずはなぜ留学をするのか、その理由をきちんとつきつめていくことが大切だと思います。英語力の向上だけの理由ではモチベーションも維持できないし、留学を通して達成したいゴールがとても曖昧です。私は明治大学には教育学部がないため、アメリカの教育システムと教育学の根本を学びたいと考えて留学しました。自分が留学前から取りたい授業が決まっていたり、どこかの学部にも所属するときめておくと全体的にスムーズにいくことが多かったです。
この留学先を選んだ理由	私はアメリカの中西部にあるレッドステイトに行きたいという思いが強かったので、アメリカでも特定の地域の大学を選んでいました。中でも、教育学を学びたいという強い思いがあり、サウスダコタ州のノーザン州立大学を選びました。留学志望当時はイリノイ州のサザンイリノイ大学カーボンデール校に行きたかったのですが、カントリーミュージックが好きでカーボーイ文化がまだに残るワイオミング、サウスダコタ、ネブラスカのあたりに行きたいと考えるようになり、ノーザン州立大学への志望の思いを強くしました。
大学・学生の雰囲気	大学はとてもこじんまりとしていて、全てが大きすぎずの適度な規模の大学です。学生数も多くはないので、学部間を超えた学生同士の交流が盛んです。留学生のほとんどは中国・韓国人で、留学生合同のイベントは学校主体で何個かはあって、留学当初はそのオリエンテーションで仲良くなった子たちと行動を共にすることが多かったです。ただ、現地人学生と留学生の交流は大規模にはなく、自分から友達を作りにくいような感じなので、そこは少し大変でした。
寮の雰囲気	寮が全てオンキャンパスでとても近いので素晴らしいです。寮同士も近いので気軽に友達の部屋に遊びにいくことができます。寮ごとにスイートスタイルからトラディショナルスタイルかなど構造が微妙に違っているので、入寮希望を提出するときにはきちんと確認して決めた方がいいと思います。私が留学した年から2つの新しい寮ができて、設備もよくなにより清潔感があってとてもよかったです。ただ、来年からは留学生だけや学部ごとに寮の住み分けをするという話を留学中に小耳に挟んだので、もしかしたら全ての寮から自分にあったスタイルの寮を選ぶことはできないかもしれません。
交友関係	留学当初は留学生の友達しかできず、アメリカ人の友達ができなくてとても思い悩みました。留学生の仲間というのはとても居心地が良くて楽しいのですが、やはりせっかくアメリカに来たしネイティブイングリッシュに浸かりたいとアメリカ人と仲良くなるための努力をたくさんしました。とりあえずなにもしないけれどただ買い物について行ったり、一緒に映画を見たりととにかく一緒に過ごす時間を増やしました。友達に自分の友達をどんどん紹介していくスタイルで、特に私が一番中よかったアメリカ人の子は顔が広く、彼女のおかげでたくさんの友達に出会いました。
困ったこと、大変だったこと	病気になったときはとても大変でした。保険に加入していたので学校病院も気軽に利用できましたが、とてもしんどい状況で英語でいろいろ説明しなければならないことや、英語で聞き取らなければならないこと、病院利用の後の手続き書類もその場で読んで書かされてとてもつらかったです。あとは冬の寒さが厳しく、車がないと買い物にも行けず、キャンパスの中でしか移動できない状況になってしまったので冬の移動は大変でした。
学習内容・勉強について	教育学部に所属してフレッシュマンセミナーで勧められる教育学入門の授業をたくさんとりました。その一方でアメリカ史やネイティブ・アメリカンについての授業など、アメリカならではの授業も履修しました。全体的にグループワークやリフレクションペーパーなどばかりで、試験で記憶力を問われるようなものはほとんどなかったのですが、英単語から暗記しなければならないというようなことはなくて幸いでした。しかし、定期試験の時にはクラスメイトの力を借りてテスト勉強を一緒にしたり、ノートを見せ合ったりしてお互い協力して勉強に取り組みました。

課題・試験について	課題はレポートを書くやオンラインディスカッションに参加するといったものが多かった ので、課題の量は多くないけれど一つ一つの課題の負担が大きかったです。試験や 休暇前後には大量の課題が出て、5つのクラスを撮っていた分徹夜で勉強して課 題こなす日も多く、身体的に堪えました。教育系のクラスでは、試験ももちろんありま すが、主にプレゼンテーションやペーパー評価であることが多く、その準備に凝りすぎ て完成まで莫大な時間がかかったことがあり、タイムマネジメントがすごく重要だったと 感じます。
大学外の活動について	留学したての頃にボランティア団体を探して参加しようと考えたのですが、クリスチャ ンコミュニティであるため、ほとんど全てが教会ベースのもので参加しにくいと感じ、ボ ランティア活動を諦めました。その代わり、勉強だけでなく、地域の人でも参加できる大 学のオーケストラに参加してその団員と仲良くなりました。私にはホストファミリーがい たので、そのファミリーの親戚や友人と土日に遊んで地域コミュニティとも交流を深め られた気がします。
留学を志す人へ	留学前にネットで調べた情報と、実際の留学生活は全然違うとよく言いますが、その 事前リサーチなしでは留学を充実したものにはできません。私は留学費用を抑えたい のと人当たりの良さなどから田舎に行きたいと思い、サウスダコタを選びましたが、 自分の思い込みによって可能性が狭まった面もあります。ボランティア先はないし、 車がないので行動範囲がとても狭かったです。事前に調べたり考えたりすればわかる ことですが、あまりにも良い面ばかりを見過ぎていたために、考えが至らず留学先で 何度も幻滅しました。その環境を自分自身でプラスに変換できたのでよかったです が、留学前の情報収集はとても大切です。こうして留学報告書をたくさん読んで、留 学経験者にコンタクトを取って、自分の留学を成功に導いていくぞという意気込みを留 学終了まで持ち続けてください。

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	睡眠	授業	授業	睡眠	睡眠
	コーヒーブレ イク	課題する		課題する		課題する	
午後	授業	授業	授業	コーヒーブレ イク	コーヒーブレ イク	買い物	ホストファミ リ-と過ごす
		授業		課題する	バイオリンレ ッスン	買い物	同上
夕刻	インディアン チュータリン グ		ELED チュー タリング	Netflix + Pizza 会	ELED チュー タリング	ルームメイト と部屋でパ ーティー	同上
夜	自由	オーケストラ 全体練習	勉強会	同上	Netflix 会	同上	同上